

記者提供資料（平成 29 年 11 月 24 日）

阪神国際港湾株式会社調査部 林、水口

TEL : 078-855-2240 FAX : 078-855-3960

神戸市みなと総局みなと振興部振興課 松木、浜端

TEL : 078-322-0124 FAX : 078-322-6121

神戸港をトランシップ拠点とした「Sea & Sea トライアル」の実施について ～アジア広域集貨プロジェクトチームとして初のトライアル～

国際戦略港湾である阪神港（神戸港及び大阪港）については、国の国際コンテナ戦略港湾政策において、日本～北米間の直航航路の充実を図るため増大する東南アジア貨物を取り込むアジア広域集貨に取り組むこととされています。

本年 3 月には、一般社団法人日本港運協会久保昌三会長の提言のもとアジア広域集貨プロジェクトチーム（チーム長：神戸海運貨物取扱業組合理事長 須藤明彦）が設立され、「東南アジア⇔北米間」のコンテナ貨物の神戸港トランシップへの取り込み等について検討が進められています。

10月23日（月）に開催された第3回プロジェクトチームにおいて、神戸港をトランシップ拠点とした「Sea & Sea トライアル」が提案・了承され、具体化に向けた調整を進めてきたところ、以下の通り実施することとなりましたのでお知らせいたします。

【「Sea & Sea トライアル」の概要】

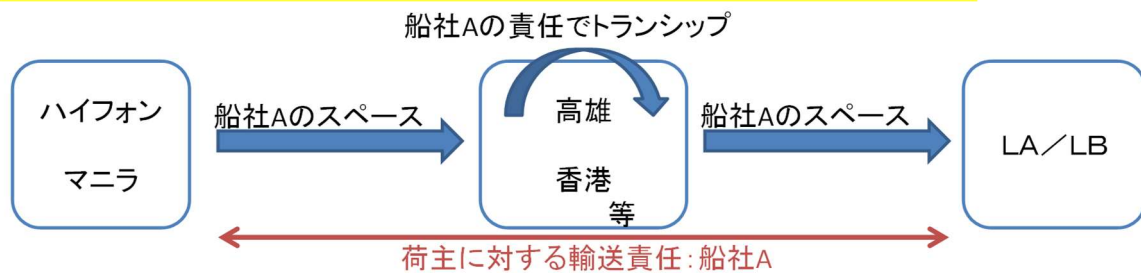
- < 目的 > 神戸港に寄港する異なる船社のスペースを組み合わせ、NVOCCが東南アジア→神戸港→北米の一貫輸送サービスを提供するオペレーションの確認
 - < 確認事項 > コンテナの詰替を回避するための調整、NVOCCが行う「仮陸揚」手続等のオペレーションの現実性
 - < 実施主体 > 阪神国際港湾株式会社
 - < NVOCC > 日本通運株式会社
 - < 手続税関 > 神戸税関
 - < 協力荷主 > キヤノン株式会社
 - < 輸送概要 > (初回の輸送：40フィートハイキューブコンテナ1本を輸送)
 - ハイフォン港（ベトナム）
 - ↓ < 起用船社：SITC >
 - 神戸港
 - ↓ < 起用船社：日本郵船 >
 - ロサンゼルス港（米国）
- ※ 引き続きハイフォン港・マニラ港→神戸港→ロサンゼルス港についてトライアル輸送を実施予定（合計40フィートハイキューブコンテナ5本程度を予定）

<計画スケジュール> (初回の輸送)

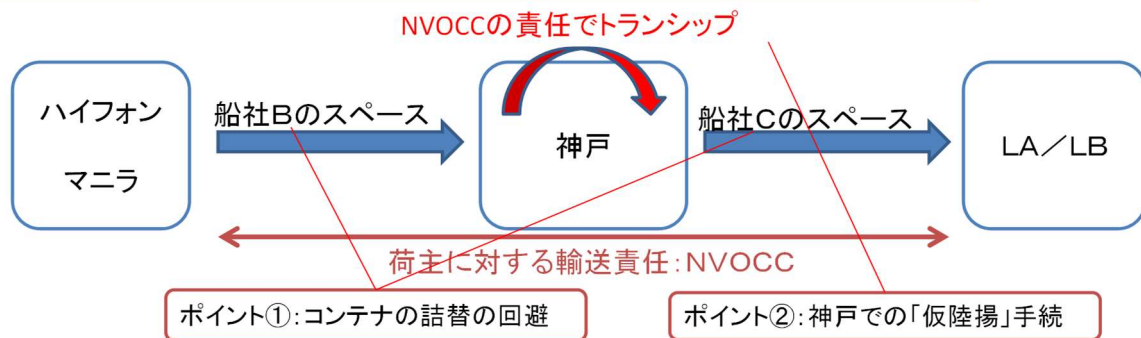
- 11月24日(金) ハイフォン港(ベトナム) 発
 - 12月3日(日) 神戸港着
 - 12月6日(水) 神戸港発
 - 12月20日(水) ロサンゼルス港(米国) 着
- ※ 本船動静等により遅延する可能性があります。

神戸港をトランシップ拠点としたSea&Seaトライアル

【通常の輸送ルート】船社Aの北米側・アジア側両方のスペースが揃わないと流れない



【今般のトライアル】北米側・アジア側のスペースがあれば船社が揃ってなくても流れる



注) NVOCC (Non Vessel Operating Common Carrier) は、船舶などの運送手段を自ら所有せず、船会社などの輸送サービスを使って第三者の貨物の輸送をする者。

(参考) 「アジア広域集貨プロジェクトチーム」参加企業・団体

- 神戸海運貨物取扱業組合 (株式会社大森廻漕店)
- 日本通運株式会社
- 株式会社後藤回漕店
- キャノン株式会社
- 住友ゴム工業株式会社
- バンドートレーディング株式会社
- 神鋼物流株式会社
- オリエント オーバーシーズ コンテナ ライン リミテッド 日本支社
- 兵庫県港運協会
- 株式会社上組
- 国土交通省港湾局
- 国土交通省近畿地方整備局
- 阪神国際港湾株式会社
- 神戸市みなと総局 (事務局)